徳山ダムの貯水池を眺めながら、ダムの説明を聞く参加者ら　＝　徳山ダム湖

『安八水害から38年、地域とダムの関わり学ぶ』

安八町・牧地区自治会

- 台風17号による記録的豪雨により長良川右岸堤防（安八町大森地先）が破堤し、大規模な浸水被害をもたらした昭和51年（1976）年の安八水害から、今年で38年目。幸いにも、当時、揖斐川に隣接する「牧地区」は、昔から現存してきた牧輪中によって氾濫水の浸入を防ぐことができた。

　40年近く経った今でも、この土地の人々の体に染み付いた水の恐怖は未だに消えていない。

長良川破堤で浸水する安八町と浸水を逃れた牧輪中
（昭和51年9月洪水）

- 澄み切った秋空、上流部の山々が紅葉で色付き始めた10月30日（木）、揖斐川上流の横山ダム、徳山ダムなど治水施設や取り組みについて学ぼうと、安八町牧地区の区長ら18名がダム見学に訪れた。

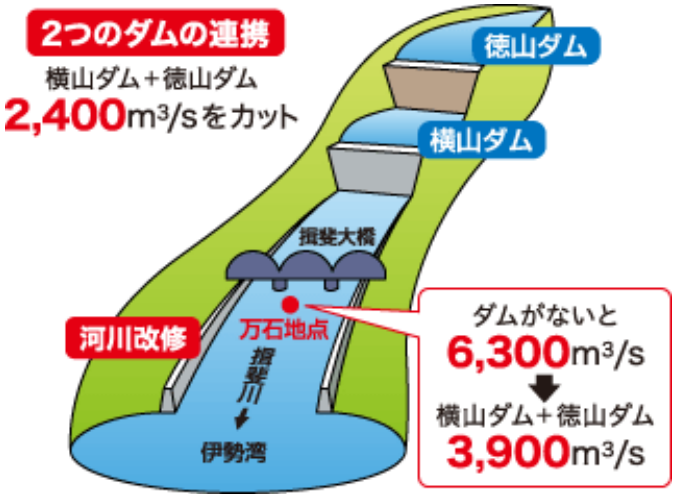
　参加者らは、担当職員から説明を受けながら、普段経験することができないダム内部などの見学や、ダムの役割等について学び理解を深めた。参加した男性の１人は「一言でスゴイ！　スケールの大きさに驚いた。我々の生活は、こう言ったダムによって守られていると改めて痛感した」ーと語ってくれました。

【徳山ダム】日本一の総貯水量を誇る雄大なダム！

水資源機構　徳山ダム管理所ＨＰより

【横山ダム】国内でも珍しい中空重力式ダム！

平成26年９月18日撮影



徳山ダム管理所の会議室での概要説明

ゲート巻き上げ機室の見学

ダムの模型展示を使った概要説明

ダム天端から貯水池を望む

ダム堤体内の通路（監査廊）

ダム内部の空洞部分を活かしたファンタジーホールでダムの役割を学ぶ

■意見交換会

・　ダム見学を終えた一行は、安八町役場に到着した後、国土交通省・細野揖斐川第二出張所長が加わり、本日の反省会及び揖斐川・長良川の治水対策について意見を交わしました。以下に、その発言の一部を紹介する。

【主な発言】

A氏　：「これまで、ダムの外観しか見たことが無かった。今回、ダム内部まで見せていただき、そのスケールの大きさや、ハイテク技術が屈指されたダムだと言うことに感動した。」

B氏　：「両ダム共に丁寧な説明をしていただき感謝。ダムの洪水調節によって、我々の暮らしが安全に守られていることが良く分かった。また、水の管理をしっかりとやられていると感じた。」

C氏　：「横山ダムは完成後50年が経過し、地震に対してダム本体の安全性について心配をしていたが、今日の説明を聞き、しっかりと点検と対策が取られているという事が分かり安心した。」

D氏　：「ダムが出来てから、川の流れが変わり、豪雨時でも揖斐川本川の水位が上がらなくなった。一方、川の中にヤナギが繁茂し、樹林化していることに不安を感じている。「水」の管理と合わせて、「木」の管理も宜しくお願いしたい。

F氏　：「安八水害から間もなく４０年。今回のダム視察は、揖斐川、長良川の治水を考える良い機会となった。今後も、この様な見学会を定期的に開催し、地域の身近な話題に対して知識を深めていきたい。

自然災害から、身を守るために・・・

・　最後に総括した、細野揖斐川第二出張所長は「揖斐川は、横山ダム・徳山ダムの２つダムが連携し、防災操作に当たっている。

本年、8月中旬に発生した台風11号では、戦後12番目の大洪水となり、両ダムの働きが無ければ、揖斐川（万石地点）の水位は２m上昇し、堤防はかなり危険な状態になった可能性があると試算している。両ダムが出来た事で、揖斐川の治水に対する安全度は高まったが、昨今の異常気象にみるゲリラ豪雨等、今後、益々、巨大化する災害に対して、ハード整備（護岸等の整備）やソフト対策（情報提供など）、総合的に取り組んでいく必要がある。どんなに治水対策が進んだとしても、想定を上回る自然の驚異は必ずやって来る。勿論、行政も全力を挙げるが、いざという時は、自分の命は自分で守る、という気構えと準備、そして家族、近所、地域での連携と助け合いが必要」ーと話した。

揖斐川・長良川の治水について牧自治会の皆さんと意見を交わす細野揖斐川第二出張所長　　＝　安八町役場（安八町氷取）